

夏休みの自由研究はおまかせ!

7月下旬から8月上旬にかけて、東京・仙台・大阪の3都市で「夏休み2017 宿題・自由研究大作戦!」が開催されます。農林水産省は消費者庁、内閣府食品安全委員会および厚生労働省とともに東京と仙台的会場に出展します。

昨年は「何ができるか考えよう!親子で学ぶ、食と暮らしの安全」をテーマに、生活に直結する食品安全や暮らしの安全についてのミニセミナー、ポスター展示、ワークショップ等を行いました。今年も食品安全や暮らしの安全についてのさまざまな情報を提供し、イベントを行います。親子で学ぶことで、自分ができること、気をつけることについて、一緒に考えてみる機会になるのではないのでしょうか。

イベントには、企業・団体等がさまざまなブースを出展します。入場には事前登録が必要です。また、各種体験プログラムは、「予約(抽選制)」、「整理券制」などがあります。下のQRコードから詳細を確認して、ご来場ください。

夏休み2017 宿題・自由研究大作戦!

日時: <東京> 7月21日(金)～23日(日) 9時～16時
<仙台> 7月28日(金)、29日(土) 9時～16時
<大阪> 8月3日(木)、4日(金) 9時～16時

会場: <東京> 東京ビッグサイト 東6ホール
<仙台> 夢メッセみやぎ
<大阪> インテックス大阪1号館
※大阪会場へは出展せず、西日本では別イベントを予定。

入場無料(事前登録制)
[問い合わせ先]
宿題・自由研究大作戦 事務局 ☎ 03-3434-0380

詳細はこちらへ!

夏休み2017 宿題・自由研究大作戦! ▶
西日本での出展予定 ▼
http://www.maff.go.jp/j/syouan/johokan/risk_comm/



上/場内ステージ。「知ろう!考えよう!親子で学ぶ、食品中の放射性物質」を開催。右/ブースでのワークショップ。どちらもたくさんの親子が参加。

※写真は平成28年のものです。



食生活の現状や食育の取り組みなどを知る

食育白書

「食生活をめぐる現場と食育実践」より



「まるのうち保健室」でのカウンセリング。

写真提供: Will Conscious Marunouchi 実行委員会



カフェで提供した限定メニュー。

こんな事例がいっぱい!

明日を美しく健康に働く
Will Conscious Marunouchi 実行委員会は、平成26年から東京・丸の内にて「まるのうち保健室」を開催し、働く女性の健康支援に取り組んでいます。カフェ等で、ヘモグロビン・体組成・骨密度の測定や食生活調査を実施するとともに、測定結果を用いて、研修を受けた保健室公認カウンセラーによる食生活や生活習慣の改善提案を受けることができます。

参加者からは、「自分の体をよく知ることができ、生活習慣を振り返るよい機会になった」という声が寄せられています。

今後は、参加者のデータをもとに、働く人が気軽に健康的な生活を送ることができる街づくりを進めていきます。

森林の整備や保全などを知る

森林・林業白書

「木材産業と木材利用」より



写真提供: 鹿児島県

丸太の船への積み込み風景(鹿児島県志布志港)。



アンテナショップ内の様子(韓国・城南市)

写真提供: 美作材輸出振興協議会

こんな事例がいっぱい!

各地域における木材輸出の取り組み

鹿児島県と宮崎県では、県境を越えた4森林組合が連携して木材輸出戦略協議会を設立。主に中国・韓国向けにスギ・ヒノキ丸太の輸出に取り組んでいます。同協議会で集出荷することによって安定的な供給が図られ、平成27年度には輸出量が輸出開始時の9倍近い4万m³となりました。

岡山県では津山圏域の木材産業関連業者で作られた美作材輸出振興協議会が、平成28年8月、県産ヒノキ製材品を展示・販売するアンテナショップを韓国城南市に開設しました。



マフトピックス

MAFF TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文/細川潤子

News 1 農林水産の“今”がわかる白書に注目!

事例も充実 普段の生活にも関連

「白書」の由来はイギリス政府が議会に提出した白い表紙の報告書。日本では一般的に政府の年次報告書を指します。

農林水産省では現在、「食料・農業・農村白書」、「食育白書」、「森林・林業白書」、「水産白書」の4つの白書を作成しています。

内容は、近年の動向の解説、図説や統計データを用いた分析、コラムや全国各地で行われている取り組み事例の紹介など。それぞれに厚みがあつて手に取ることは少ないと思いますが、より多くの方に読んでいただけるよう、さまざまな工夫をしています。下に示した事例がその一例。目を引いたものだけを読んでも面白いと思います。もちろん通して読めば農林水産省の施策のすべてがわかります。また、「ジュニア農林水産白書」は、食料や農林水産業、農山漁村について、子ども向けにイラストを交えて紹介しています。

農林水産省Webサイトには白書の内容をまとめた概要版も掲載していますので、ご覧ください。また、地方農政局や大学等全国各地で白書の概要を解説する説明会を開催しています。

子ども向けの表紙だけは色合い豊かに。



水産物の生産や消費などを知る

水産白書

「我が国の水産物の需要・消費をめぐる動き」より



店頭には全国の魚が並ぶ。

店員さんは魚に合ったさばき方や調理法をアドバイス。



写真提供: (株)フーディン

こんな事例がいっぱい!

都会の新しい魚屋さん

魚屋さんのイメージを覆すような新しい鮮魚店が注目を集めています。その店の名前は「sakana bacca」。平成26年に1号店をオープンし、東京都内に店舗を展開しています。カフェかインテリアショップを思わせる店内にさまざまな魚を丸ごと陳列。ITを駆使して集荷・出荷を簡略化することで、獲れた翌日には店頭と並ぶよう体制を整えています。

お店のデザインや経営システムは斬新な一方で、販売の際には従来の魚屋さんのように消費者との対話を重視。さばき方や調理法を教えるほか、要望に応じた魚を提供しています。

農畜産物の生産や輸出などを知る

食料・農業・農村白書

「農業競争力強化プログラム」より

こんな事例がいっぱい!

野菜を街に届ける野菜バス

静岡県は、農業者が生産した少量・多品目の野菜を定期巡回トラック(「野菜バス」)で集荷し、共同配送することで流通経費の削減を図るシステムの構築に向けた実証実験事業を平成28年度から行っています。

県から委託を受けた物流、IT、食品事業者等で構成される「生産・流通プロセス一体型システム開発協議会」では、県西部と中部の2ルートで、「野菜バス」(2トラック)を1日1便巡回させています。最寄りの野菜バス停留所に野菜を持ち込み、実需者の最寄りの停留所まで届けます。

今後、事業の検証結果を踏まえ、新たな県内配送サービスの継続的な運営手法を確立するとともに、将来的には首都圏とつながるルートも実現したいと考えています。



「野菜バス」による野菜の集荷。

写真提供: 静岡県

白書情報はここへ!

農林水産省白書▶



読者の声

読者の皆さまから寄せられた
『aff(あふ)』5月号へ
ご意見・ご感想を紹介します。

「外食」の記事を読み、子どものころに連れていってもらった洋食屋さんを思い出しました。飲食店を経営していますが、私にとって、あのときの感情や思い出は今でも大切なものになっています。(50代・男性)

外食の50年史は自らの食を振り返る意味でとても役立ちました。食育の充実と外食の価値を考える機会を得ました。(60代以上・男性)

「駅弁」特集とても面白かったです。自分の地元の駅弁を知らず、食材が「確かに」と納得できる内容で勉強になりました。(20代・女性)

我が家には小麦粉アレルギーのある家族がいます。米粉だけで小麦粉を使っていない食品を探しても、なかなか見つかりません。「マフトピックス」の米粉の記事を読み、米粉だけの商品がもっと出回るようになればいいな、と思いました。(40代・女性)

「多面的機能支払交付金」を読んで、いろいろな交付金がどのように活用されているのかもっと知ってみたいと感じました。(30代・女性)

「こづゆ」という郷土料理を初めて知りました。帆立だしのつゆを味わってみたいくなりました。これから何が登場するのも楽しみです。(30代・女性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌 aff のサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご覧ください。無料です。
<http://www.aff.go.jp/pr/e-mag>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

地域が一体となって都市部の地域資源を守る

多面的機能支払交付金
[第3回]

東京都府中市に残る農業用水路「雑田堀」は、市民が自然と触れ合う大切な場所。平成14年ごろから地元小学校の児童やPTAを中心に清掃活動が行われてきました。平成27年度にこれをもとに流域の農業者と地域住民、地元企業が連携した「Team 雑田堀」が立ち上がり、交付金を活用した保全活動が行われています。これまでの清掃活動に加え、用水路の脇に花を植え始めました。また、雑田堀にビオトープができたことをきっかけに、絶滅危惧種の移植など、地域の魅力を高める活動も行っています。

小学校や企業などの農業者以外の人たちが協力し合うことで、それぞれ得意分野が生かされ、都市部に残された農地や用水路の存続を可能にしています。

地域みんなで農地や用水をケアする「Team 雑田堀」



雑田堀は江戸時代から使われてきた農業用水の支流。子どもたちが中に入って遊べる、都市部では希少な用水路。

清掃活動後の読み聞かせ。



自分たちで育てた花の苗を植える。



ビオトープに絶滅危惧種を移植。

その後

花が咲いてごみのばい捨ても減った。

多面的機能支払交付金とは…

農業・農村の有する多面的機能が、適切に維持・発揮されるよう、農用地や水路、農道等の地域資源を保全している地域の共同活動を支援するための交付金です。

News 3 夏休み恒例の「こども霞が関見学デー」開催

楽しいプログラムがいっぱい

毎年好評の「こども霞が関見学デー」が今年も8月2日、3日に開催されます。このイベントは、平成12年度から実施されており、文部科学省をはじめとした府省庁等が連携して、業務説明や省内見学などを行うものです。子どもたちが中央省庁を見学し、さまざまな体験をすることで、夏休みに広く社会を知る体験活動の機会になります。

農林水産省でも子どもが見て、調べて、作って楽しめるイベントを盛りだくさんにそろえています。大臣室・記者会見室の見学、国産の食材・日本の食を考える教室、さまざまな体験ができるワークショップなど。参加することで親子のふれあいが深まり、夏休みの自由研究にも役立つことでしょう。当日は受付で「霞が関こども旅券」(パスポート)を受け取り、興味に合わせて霞が関を自由に歩き、各府省庁内のプログラムに参加することが出来ます。

イベントを体験する子どもたち

「田んぼの水はどこから来るの? 模型を触って遊びながら学ぼう!」農業用水の働きをわかりやすく説明したジオラマの展示。



「おうちでプチ農業体験!〜育てて食べてみよう〜」マイ畑を作って豆苗を育てる。



「ギョーさん、おさかなを知ろう!」さかなクンによるお魚セミナー。



「測って、遊ぼう! 統計ランド」実際の調査と同じやり方・道具で木になるりんごの数の計測体験。



※写真はすべて平成28年度のもので。

「平成29年度こども霞が関見学デー」

日時: 8月2日(水)、3日(木) 10時～16時
受付場所: 農林水産省本館正面玄関、本館南玄関、北別館玄関(受付時間は10時～15時45分)

入場無料

※イベントにより、事前予約や当日受付登録が必要です。詳細は下のQRコードよりご確認ください。

最新情報はこどもへ!

こども霞が関見学デー

